

製品名: カスパーゼ-14 (7P17) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe07965**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:100-1:200,FC 1:10-1:100,IP 1:10-1:100
分子量	28kDa

抗原情報

遺伝子名	CASP14
別名	CASP14; Caspase-14; Caspase 14; MICE; CASP-14;
遺伝子 ID	23581.0
SwissProt ID	P31944
免疫原	ヒトカスパーゼ 14 の合成ペプチド

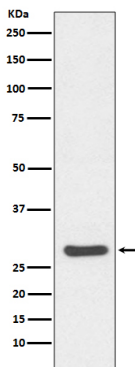
背景

カスパーゼは、アポトーシスの実行に重要な役割を果たすシステインプロテアーゼファミリーです。カスパーゼ 14 (別名 MICE) は、カスパーゼファミリーの限定発現を持つユニークなメンバーで、胎児組織と成人の皮膚に見られます。カスパーゼ 14 は、カスパーゼ 8 によって p18 サブユニットと p11 サブユニットに弱く処理されます。また、ケラチノサイトの最終分化中にフィラグリンのタンパク質分解処理を担っている可能性もあります。表皮分化に関与する非アポトーシスカスパーゼです。表皮角質層で優勢なカスパーゼです (PubMed:15556625)。ケラチノサイトの分化に役割を果たしているようで、角質化に必要です。フィラグリンをタンパク質分解処理することで表皮の成熟を制御します (類似性による)。In vitro では基質[WY]-X-X-D モチーフを優先的に選択し、合成カスパーゼ基質 WEHD-ACF に対して活性を示す (PubMed:16854378, PubMed:19960512)。表皮におけるプロサポシンのプロセシングに関与する (類似性に基づく)。網膜色素上皮細胞バリア機能にも関与している可能性がある (PubMed:25121097)。分化したケラチノサイトにおける DNA 分解に関与し、DFFA/ICAD を切断して DFFB/CAD を遊離させると考えられている (PubMed:24743736)。

研究分野

細胞生物学

画像データ



ヒト皮膚溶解物中のカスパーゼ 14 発現のウェスタン ブロット分析。